

住民参加による アグロフォレストリー推進支援 (ミャンマー・エーヤワディー河口域)

〒164-0012
東京都中野区本町3-29-15-1101
<http://www.3.big.or.jp/~actmang>



ひろげる助成

3年目

実践



コンニャク芋の収穫(トシバワテ村)

開発・コンニャク栽培

1,200個体

講義・実習・技術移転

80人/日

今年度計画の達成度

70%

活動の全体目標に対する達成度

80%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

ミャンマーではコンニャク栽培事例がほとんどない。日本とは事情が違う。またアイデアで賛同を得たキッチンガーデンだが、暮らしに追われ時間的余裕がない実状があった。

■ 工夫した点

やる気を起こさせること。1kg以上に育ったコンニャク芋を買い上げ、お金になることを実感してもらった。良い成績だったキッチンガーデンを皆さんに知ってもらった。

課題

コンニャク事業：栽培技術の確立・荒粉加工の技術移転・ヤンゴン市場の開拓。キッチンガーデン事業：野菜類の自給を図ること。

目標

換金作物としてコンニャクの有用性を納得してもらうこと。キッチンガーデンの有用性を理解してもらうこと。

活動内容と成果

コンニャク事業：①試験栽培の継続、②荒粉加工の技術実習、③皆でコンニャク料理を作り、食事を楽しむ、④ヤンゴン市場(日本食レストラン、スーパーマーケット)へ板コンニャクの売り込みを図る。⑤現地側リーダーのチョウニエンは自身の問題としてコンニャク事業を考えるようになった。シャン州、カヤー州、モン州の視察はチョウニエンの提案である。キッチンガーデン事業：篤農家イェラはキッチンガーデンで12種類の野菜を育て、自発的に隣近所に配っていた。事業の未来に希望を持った。



生育中のコンニャク(ワゴン村)

全助成期間の活動を振り返って

コンニャクの栽培技術開発と荒粉加工の技術移転は満足できる成績を得た。だが栽培の普及にはまだほど遠い。市場開拓が着手されたばかりだからだ。市場が確保されれば組合の組織化も地域貢献も可能になる。「商売」としてのコンニャク事業を成功させねばならない。キッチンガーデン事業は数人の篤農家によってモデル的には成功した。しかし、住民側の実状—時間的余裕がない—から、その普及には長期的取り組みが求められよう。



コンニャク料理を楽しむ(ワゴン村)

今後の展望

本事業は「マングローブ支援プロジェクト」(これまで20年間続けている)の一環として継続する。次の舞台はシャン州(北海道の2倍近く約16万km²)に移したい。事業を「コンニャク」に絞ったのは緊急度からである。野生コンニャクの減少はミャンマー全域で危機的状況にある。その保護に栽培が効果的であることはミャンマー政府も認めていることだ。ピンダイエ地域で培った栽培・加工技術を活かしたい。